

平成29年度
中間市総合教育会議

- | | |
|---------|---|
| 1 日 時 | 平成30年1月24日（水）15時00分 |
| 2 場 所 | 市庁舎 本館 第一委員会室 |
| 3 構 成 員 | 福田市長 河本委員 衛藤委員
齊田委員 片平教育長 |
| 4 事 務 局 | 田中教育部長 村上教育総務課長
森学校教育課指導室長 古賀生涯学習課長
小林教育総務課総務係長 |
| 5 傍 聴 人 | 11人 |
| 6 議事日程 | 別紙のとおり |
| 7 議事次第 | 別紙のとおり |

総合教育会議議事日程

平成30年1月24日（水）15時00分

- 1 開会
 - (1) 市長あいさつ
 - (2) 教育長・教育委員自己紹介

- 2 議事
 - (1) 平成29年度新規事業進捗状況について
 - (2) 平成30年度新規事業（案）について

- 3 閉会

[開会時刻：15時00分]

- | | |
|--------|--|
| 田中教育部長 | みなさんこんにちは。 |
| 各委員 | こんにちは。 |
| 田中教育部長 | <p>定刻となりましたので、ただ今から、平成29年度中間市総合教育会議を開催いたします。私は本日司会、進行を務めます教育部長の田中でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議の前に報告でございますが、本日坂口委員より欠席の連絡を受けておりますので、ご報告させていただきます。</p> <p>それでは会議次第により会議を進めさせていただきます。最初に福田市長よりご挨拶をいただきます。</p> |
| 福田市長 | <p>はい。皆さまこんにちは。中間市長の福田健次でございます。本日はお忙しい中、雪の舞う中、中間市総合教育会議にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。また、教育委員の皆様には日頃から中間市の教育行政の充実、発展、青少年の健全な育成などにご尽力いただきまして、心から感謝申し上げます。この総合教育会議、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成27年に改正されまして、すべての地方自治体に設置することが義務付けられたものです。市長と教育委員会が一層連携を密にして、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、行政を進めていくという趣旨でございます。一口に教育と申しましても、学校教育のみならず、生涯学習など、その範囲や分野は広く、対象年齢も多世代にわたります。中間市教育大綱にも基本理念として、次の世を担う教育の充実から、人を育むスポーツと文化の元気なまちづくりと挙げられておりますように、その実現のために、また未来を担う子どもたちのために私たちは何をすべきか、何ができるのかをこの委員の皆様とともに、考えたいと存じております。私自身も就任後最初の開催となります。教育委員の皆様と意見を語り合うと共に、より市政が開かれたものになるように、今まで以上に頑張っております。そして貴重な機会となりますことと思っております。私もこの政策の実現を通しまして、さらに中間市の魅力を全力発信していく所存でございますので、どうかひとつ今日はよろしくお願いいたします。</p> |
| 田中教育部長 | 市長、ありがとうございました。続きまして、ここで教育長及び教育委 |

員の皆様より自己紹介をお願いいたします。

片平教育長 教育長の片平と申します。昨年12月に就任にいたしました。私はとにかく市長の全力発信に向けて、教育の内容の充実を図って、発信できる内容ということで、教育の中に発信をして、充実に向けて取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

河本委員 教育委員の河本と申します。3期目に入りました。保護者として学校教育に対する意見を述べさせていただこうと思っております。特に関心を持っておりますのは、学力向上といじめ問題です。どうぞよろしくお願いいたします。

衛藤委員 教育委員の衛藤と申します。今年で5年目になります。出身母体は学校の教職員をしておりました。児童、生徒の学力の向上のために頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

齊田委員 教育委員の齊田と申します。3年目になります。今は浄土真宗本願寺派のお寺の住職をしております。学校教育や教育行政につきましても全く素人でございますけれども、子どもが小学校4年生で市内の学校に通っておりますので、父兄の立場で教育の方へ発信できたらと思っております。よろしくをお願いいたします。

田中教育部長 どうもありがとうございます。それではこれより議事に入らせていただきます。議事は中間市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により市長に進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

福田市長 はい。それでは次第にそって議事を進めさせていただきます。その前に平成27年度に策定されました、中間市教育大綱についてですが、私も拝見したところ現在の中間市にふさわしいものであると実感しております。よって、この教育大綱の理念をそのまま尊重いたしまして、中間市の教育行政の遂行に努めていきたいと考えております。

では議事1、平成29年度主要事業進捗状況についてでございます。事務局から説明をお願いいたします。

片平教育長 それでは平成29年度教育委員会が実施しております主要事業の進捗状況につきまして、担当課長から報告してもらいます。

村上教育総務
課長

事業名といたしまして「学校施設設備事業(トイレ改修)」でございます。概要といたしましては、小中学校の未改修で老朽化した和式トイレを、衛生的で明るい洋式トイレに改修する工事を、平成28年度から平成31年度にかけて実施するものでございます。平成29年度の内容といたしましては、南小学校、北小学校、東小学校になりますが、事業費として90,057,000円の見込みに対しまして、平成28年度3月補正予算にて国の補助金を活用して、小学校3校の整備をさせていただきました。事業としましては平成28年度事業を平成29年度にそのまま繰り越しまして、夏休みに改修を実施しております。それぞれ、南小学校のトイレ改善については、46,796,400円、北小学校のトイレの改修につきましては、23,095,800円、東小学校のトイレ改修については、19,667,880円で合計89,560,080円となっております。洋式化率につきましては、これまでの和式から洋式化によって概ね81.6%から92.9%という高い確率で洋式化しております。一部、和式を使いたいというお子様もいらっしゃいますので、一部については1割程度和式を残しているような形になります。平成30年度以降も国の動向を把握しつつ、同じように補助金を活用させていただきながら事業を推進し、残りの小学校3校、中学校4校について平成31年度までに整備を進めていく予定でございます。以上報告します。

森学校教育課
指導室長

「英語教育推進事業 中学校校区ごとのALT配置」についてです。事業概要としましては、4名の外国人英語指導者を各中学校区に派遣することで、日常的に子どもたちがネイティブの発音に親しむことができる環境を作り、実践的な英語力を高めていきたいと考えております。内容でございますが、平成28年8月から、中間市ではALTを1名増員し、外国語アドバイザーと合わせて4名の外国人英語指導者を任用させていただいております。この4名を、市内4中学校に1名ずつ派遣し、常駐してもらうことで、中学校及び中学校校区内の小学校でも外国語活動・英語科の学習指導に当たらせております。各中学校に常駐するという一方で、日常的に授業だけでなく休み時間や給食時間、掃除時間等様々な時間に英語の発音に触れることができるということで、日々の英語科・外国語活動の授業をますます充実させることが出来ております。また中学校毎の配置としたことで、小中連携した英語教育の推進という部分も可能になっておりまして、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細やかな英語教育の推進に繋がっていくところでございます。事業費につきましてはALT4名分の報酬、任用

にかかる諸経費等含めまして、20,384,000円となっております。4名のALTの動きですが、月曜日は主に事務局の方でカリキュラムの作成、教材の準備、その他指導方法についての打ち合わせを行っております。火曜日から金曜日につきましては終日学校に在中しまして、実際に学習指導にあたることになっております。

続きまして「学力向上推進事業 学力向上に係る調査研究」についてでございます。事業の概要ですが、小学校3年生から5年生、中学校1、2年生が全国学力調査の対象になっていない学年でございますが、その子どもたちに全国学力学習状況調査に準じるテスト問題を実施することによって、子どもたちの学力の経年変化を分析することができ、そのことによって指導の工夫、改善に繋げるものでございます。事業の内容としましては、子どもたちの学力向上のために必要なこととして、各学校における学力向上の取り組みの検証と、それによる指導の改善が欠かせません。そのためには、きめ細かく検証を行うようにするための学力調査を年1回ではなく、年2回続けることが必要と考え、取り組んでいるところです。1回目は4月に、2回目は12月に行うことで、学力調査の結果をすぐに学校に、子どもたちに還元することができ、きめ細やかな学習指導の改善に繋がっているところです。事業費につきましては、各学年教科や人数が違いますので、合計で各教科2回分のテストですが、4,351,040円となっております。現在は2回目の12月に行いました学力調査の結果がまもなく届くところで、来年度の学力向上の取り組みに向けて学校がこれからの工夫をしているところです。

『学力向上推進事業 中間市共通家庭学習ノート「ドリカムノート」作成・配布』でございます。家庭学習の習慣化と充実を目指して、中間市独自のドリカムノートという、家庭学習ノートを作成し、すべての小中学校で配布し子どもたちが使っていて、全ての小中学校共通の取り組みとして推進しております。授業内容は今申し上げた通りでございます。小学校版につきましては、全ての小学校の5、6年生の児童に配布しております。中学生版、こちらについては、全ての1年生から3年生の中学生、生徒に配布をし、家庭学習でそれぞれ活用をしてもらっております。市内共通のノートを使用することで、担任、学校間にばらつきが出てきます家庭学習の指導について、一定の指標を設けることが出来まして、その結果子どもたちにある程度均質の内容を担保した家庭学習を提供できることできるようになっております。小中学校の繋がりにつきましても、このことによりまして継続的な指導支援につながっております。事業費につきましては1,600,000円を計上させてもらってございまして、児童、生徒への配布数

ですが、小学校につきましては週末を主に家庭学習として取り組んでいきますので、多い子で2冊、基本的には1～2冊を一人ひとりに配っております。中学生につきましては、特に中学3年生は受験がありますので、3年生については1学期で終了しております。1、2年生につきましては、年間を通して使うようにしております、その結果配布冊数が1、2年生と3年生では違っておりますが、概ね中学1、2年生で5～8冊、3年生につきましては1～3冊を配布しております。以上でございます。

古賀生涯学習
課長

事業名「なかまっ子放課後イングリッシュスクール事業」でございます。事業概要といたしましては、各小学校において、放課後の時間を利用して週1回、小学校の4、5年生を対象に英語学習を行っております。事業内容といたしましては、事業運営については民間に業務委託しております。NPO法人 Heart・fullPro.というところになります。対象学年は小学校4年生、5年生の希望者。実施期間は平成29年11月～平成30年3月までの約5か月間。授業回数は年間で14回を開催いたします。1クラスの上限は35人で、計8クラスとなります。1クラスに外国人講師1名、日本人講師1名、アシスタント1名の計3名で、授業時間は45分で実施いたします。年間あたりの授業費としては、スクールの事業委託料4,555,000円に消耗品の120,000円を足しまして、合計で4,675,000円を計上いたしました。補助金は、放課後子ども教室補助金が対象経費の2/3の補助となり650,000円が歳入として入る予定でございます。平成29年度の事業実績といたしましては、平成29年度9月議会において予算要求を行い、10月に参加児童の募集を行いました。11月から4年生、5年生を対象に行っております。参加児童数は、12月現在187名の登録があります。

事業名「イングリッシュキャンプ事業」です。事業内容は全小学校区の5、6年生を対象とした英語キャンプを実施いたしました。事業内容といたしましては、キャンプを通して、日常生活の英語に馴染み英語に対する関心を高める体験を、ALT及び外部団体を活用し実施をいたしました。全小学校区で30名程度の参加でございます。年度あたりの事業費は、講師謝金で207,000円。食事代におきましては、受益者負担としております。平成29年度の実績は、実施場所は福岡県立社会教育総合センターで行い、定員40名といたしております。講師には中間市のALT、北九州教育事務所のALT及び福岡教育大学生の計12名で運営いたしました。事業内容については、野外炊飯や外国の遊びなどを取り入れた英語の授業を行い、日常会話も基本的に英語で過ごすため、児童は聞き逃さない

ように必死でリスニングをし、英語を理解しようとしていました。イングリッシュキャンプでしか得られない貴重な体験であり非常に有意義な体験であったという報告があります。中間市の英語教育におきまして、先ほど紹介しましたイングリッシュスクールと、イングリッシュキャンプともう1点、英検の補助事業もやっております。受検料は2,000円後半から5,000円弱になりますが、これを自己負担金500円として差額を補助いたします。平成29年度は現在のところ中学生で222名、小学校で3名の受験の申し込みがありました。結果はまだ報告がありません。

事業名「日本体育大学出身アスリートによるスポーツ研修会」事業です。事業概要といたしましては、平成27年6月15日に学校法人日本体育大学とのスポーツ振興に関する協定を締結。本市において将来アスリートを目指す青少年や体育指導者のレベルアップを目的として、日本体育大学出身のトップアスリートを招き、貴重な講話や体験談話などを行っていただき、実技指導も行ってもらっています。平成29年度の事業内容は、日本体育大学出身アスリートによるスポーツ講演・実技指導で陸上の講師をお招きしました。講師謝金が400,000円で、全ての経費で840,688円を計上しました。平成29年度の実績としましては、11月18日に陸上教室及び基調講演を開催し、講師は2016年リオパラリンピック陸上女子400mで銅メダルを獲得した辻沙絵選手を含む陸上競技関係者4名招聘いたしました。陸上教室は、市内小学生40名を対象に中間市体育文化センターで開催し、陸上教室の参加した児童から市内の総合地域スポーツクラブが運営する陸上教室に参加申し込みがあるなど、一過性で終わらず、市民のスポーツ振興に繋がる事業となっております。基調講演は、辻氏らを講師になかまハーモニーホール（大ホール）で開催し、「障害は個性？」をテーマに約300名が聴講しました。アンケート結果におきましては、参加者のほぼ全員が講演内容に満足しており、また、スポーツ全般はもちろん、パラスポーツの関心や理解を深める事業になったと思います。

事業名「中間市歴史民俗資料館台帳作成事業」事業概要といたしましては、資料整理と台帳作成を平成28年度から3年計画で実施しております。事業内容といたしましては、資料館資料の（民具資料で2,000点以上、紙資料5,000点以上、考古資料2万点以上、書籍1万冊以上）資料整理と台帳作成を臨時職員2名が各作業に従事して行っております。最終的には、書籍は閉架扱いの図書として図書館の検索システムに入れ、市民が資料閲覧を出来るようにいたします。また、他の資料については資料データをホームページ上で公開し、市民や研究者に広く歴史や文化財の情報を提供するというところでございます。年度にあたり総事業費は賃金と共済費

を合わせて3,120,000円となっております。平成29年度の実績といたしましては、紙資料及び書籍の資料整理・台帳作成はほぼ完了し、引き続き、考古資料の資料整理と台帳整理を現在行っている途中でございます。

事業名「スポーツ・文化芸術大会等出場者補助金事業」でございます。事業概要は、中間市におけるスポーツ及び文化芸術活動の振興、普及及び人材育成並びに中間市の認知度向上を図るため、スポーツ・文化芸術に関する大会への出場を通じて本市に貢献した中間市所在の高等学校在学者に対し、スポーツ・芸術大会等出場者補助を交付するものでございます。事業内容といたしましては、1人あたり国際大会で50,000円、全国大会で15,000円または8,000円、県大会で3,000円となっております。補助対象人数は大会要項に登録済みの選手等で20名を限度としております。交付回数は1人あたり、同一年度の大会で2回を限度としております。平成29年度の予算ではスポーツ部門では900,000円、文化芸術部門では460,000円を計上いたしました。平成29年度の実績といたしましては、スポーツ部門では平成29年12月26日現在で、申請件数は3件で、合計で365,000円を交付しております。文化芸術部門についての申請は現在のところありません。以上でございます。

福田市長

はい。ありがとうございました。ただ今、今年度の主要事業について各課長より進捗状況の説明がありました。教育委員の皆様何か意見やご質問ございますか。

衛藤委員

トイレ改修の洋式化率についてです。東小学校と南小学校は学校規模が変わらないと思いますが、東小学校の予算の額が非常に少なく、洋式化率は6%位しか変わらないということですが、これはどういうことなのでしょうか。

A L Tの配置についてですが、4名程配置をされまして、1年4か月ほど期間が経過しておりますが、1名を配置されたことに伴う授業の効果は、どのような効果があったのかということが分かりましたら、分かる範囲で教えていただけたらと思います。

ドリカムノートにつきましては、今詳しく説明がありましたので、よく分かりますが、9月にドリカムノートの検証委員会があって、それから後は無いということですが、普通1年間を通してドリカムノートがどれほど子どもたちに有効活用出来ているかを考えたときに、学年末に委員会が必要無いのでしょうか。

放課後イングリッシュスクール事業ですが、昨年度は8学級ということ

でしょうか。だいたい200名を超えていたと思いますが、本年度は若干少ないということで、今後増やされる予定があるのでしょうか。非常に人気があり、好評を得ているというお話を聞いていましたので、本年度希望者が少ないということはどうしてなのでしょう。

最後、アスリートの補助の件ですが、卓球で有名な早田ひなさん。この方は対象になるのかならないのか。このことについてお尋ねしたいと思います。以上です。

村上教育総務
課長

東小学校と南小学校のトイレの予算についてと整備状況についてのお尋ねについてお答えいたします。

トイレ改修事業につきましては、第2期工事となりまして、南小学校は平成17年度にも整備をさせていただいております。東小学校については平成21年度に整備させていただいております。まず南小学校の総か所数が13か所に対して、東小学校は9か所という、元々の数に差がございまして、南小学校は13か所中4か所を前回整備済みで、今回は改修が9か所となっております。東小学校は9か所中、整備済み3か所、今回は3か所の改修をさせていただいたということで、予算規模に差が生じております。以上でございます。

衛藤委員

わかりました。ありがとうございました。

森学校教育課
指導室長

「英語教育推進事業」のご質問に対してお答えいたします。4名の外国人指導者に係る授業効果についてでございますが、子どもの英語力の前に、特に小学校の教員の授業に関しては、ご存じの通り新しい指導要領に移行しますが、その折には外国語活動が必修となります。その際に、小学校の課題として、英語の専門のスタッフがいないということがあげられますが、以前から中間市ではALTを手厚く取り組んでおり、小学校の教員が英語の学習指導に対して、かなりの自信とやっつけられるという確信を深めてきております。実際に英語の授業、外国語活動の授業をどのように進めるか、教員もネイティブの発音を日常的に聞くことで、教員自身の英語に関するスキルや、抵抗感も薄れるというところも効果として上がってきております。それから子どもたちの英語学力の向上については、現在客観的な指標というものはありませんが、小学校では、外国語に慣れ親しむということが大きな要素となっております。来年度以降、全国学力学習状況調査にも英語が入ってくるようになります。この調査の内容の中で、英語に関する子どもたちの意識や意欲の面について、全国との比較の中で、どのような

結果が出てくるのかというところを、私たちが気にしているところです。今の段階の手応えとしてですが、授業を参観する際に、以前から子どもたちは外国語活動が好きでしたが、中学校の英語科においてもALTとのやりとりの回数は増えますので、中学生でも活発に英語を口にしようとする、そういう部分が見てとれるところがございます。具体的な客観的な成果についても今後図っていきたいと考えております。

片平教育長

それに付け加えて宜しいですか。英語暗唱大会が中間市で開催されております。その英語暗唱大会に各中学校一人ずつALTが配置されていますので、英語暗唱大会に向けての事前指導がしっかりできていることも非常に高い効果があるかと思えますし、その英語暗唱大会に臨もうという子どもたちも増えているところも、非常に大きな成果ではないかと考えております。

衛藤委員

ありがとうございました。

古賀生涯学習
課長

それでは「なかまっ子放課後イングリッシュスクール事業」についての187名についてでございます。確かに平成28年度は240名でしたが、この調査が11月から始まり、1か月程度経過時点で187名となっております。年が明けて、まだ200名には達していませんが、10名程度は増えており、現在も随時募集をしております。

次に、スポーツ・文化の補助金の関係ですが、早田ひなさんは対象となります。

森学校教育課
指導室長

「学力向上推進事業」のドリカムノートの検証委員会についてですが、おっしゃる通り年間を通じた検証が必要でございますので、9月段階までは資料に記載しておりますが、それとは別に2月に第2回の検証委員会を計画しております。検証委員は各学校の教務主幹が担っておりますので、2月の教務主幹担当者会議がございますので、その折にドリカムノートの年間を通じた使用に関する実績と、次年度に向けての改善点を検討していこうと考えております。

衛藤委員

ドリカムノートで、中学1、2年生のスタート時が5～8冊、他は全部で1～2冊と書いています。小学生と中学生はドリカムノートの内容が違おうと思いますが、5～8冊となっている理由は何でしょうか。

森学校教育課 指導室長	中学生につきましては、基本毎日取り組みます。意欲的に学習を進めた いとい生徒につきましては、早く終わることがありますので、その時に追 加で配るため、この冊数に差が生じます。毎日取り組むという前提がござ いますので、冊数が1冊で終わることはありません。最低でも5冊は必要 になるということで、この数字となっております。さらに多く取り組む生 徒につきましては、6冊、7冊、8冊と増えていきます。中学校3年生に つきましては、2学期以降は受験という具体的な課題が出てきますので、 そちらに照準を絞った学習課題を行います。受験対策を行っていきま すので、従来の大学ノートを使った家庭学習に移行するために1学期だけ の使用になりますので、中学校3年生は少なくなっております。以上ござ います。
衛藤委員	中学校の1、2年生だけは最低限のノルマが決まっているということ でしょうか
森学校教育課 指導室長	そうです。
衛藤委員	小学生は1冊からでも良いけど、1冊で終わる子もいれば2冊、3冊で 終わる子もいるということですが、中学校1、2年生は最低5冊がノルマ ということですね。
森学校教育課 指導室長	はい。
衛藤委員	わかりました。
福田市長	様々なご意見ありがとうございました。発言が無いようなので、次に議 事（2）平成30年度新規事業案について事務局から説明お願いいたしま す。
片平教育長	はい。それでは30年度の教育委員会で取り組む新規事業につきまして 各課から説明させていただきます。
村上教育総務 課長	学校施設整備事業、小中学校特別教室空調設置について提案申し上げま す。現在こちらにつきましては予算査定中でございまして、確定ではなく提

案という形でございます。特別教室の空調設置につきましては、子どもさんの保護者の方や、教育委員さん、教育事業の点検評価を行っていただいている委員の皆様方から設置についても検討してはどうかという要望が寄せられています。現在予算要求をさせていただいている段階でございます。事業内容につきましては、平成27、28年度で小中学校につきましては普通教室、特別支援教室、図書室、給食調理室等に空調機器を設置させていただいております。児童、生徒の教育環境の更なる向上ということで、今未整備であります音楽室、理科室などの特別教室についても空調を設置してはどうかという提案でございます。本事業につきましては、平成30年度に建築計画を国に提出するとともに実施設計、平成31年度に工事を実施という計画となっております。事業費につきましては、平成30年度予算要求については、実施設計費として9,008,000円。平成31年度はまだ予算要求段階ではございませんが、実施設計に基づいた設置工事費50,000,000円計上しております。現在の各学校の高圧変電気等の容量に基づきまして、1校につき、2か所程度、最大25教室の整備という計算をさせていただいております。以上です。

森学校教育課
指導室長

続きまして、学校教育課でございます。SSW事業、SSWはスクール・ソーシャル・ワーカーの略でございます。現在学校が抱える問題というのは、毎年複雑化、多様化、困難化してきております。そのような様々な諸問題に対応するために学校だけでは解決が非常に困難であるという状況から、教員以外の専門スタッフを配置、派遣し、家庭環境や学校環境の改善、専門性を生かした組織的取り組みの推進にあたることで子どもたちの抱える問題を解決していこうものでございます。具体的にはSSW1名を中間市専属スタッフとして雇用するとしておりましたが、より効果的な方法を検討する中で2名を業務委託という形で任用すれば、より効果が高いのではないかと今考えて、進めているところでございます。いずれにしましても専門性の非常に高いSSWを任用することにより、学校だけで解決困難な問題に対して迅速に適切に切り込むことができ、関係機関等と密接な連携をとりながら子どもたちの問題を解決していきたいと考えております。事業費としましてはSSWへの報酬ということで400万円を計上しております。以上です。

古賀生涯学習
課長

続きまして生涯学習課の30年度の新規事業案でございます。事業名は中間市制施行60周年記念事業特別展といたしまして、「郷土の偉人仰木魯堂と仰木政斎」展を開催したいと思っております。平成30年度は、中間

市制施行60周年となります。そこで、これを記念した特別展を歴史民俗資料館主催で開催をします。長津村に生まれ、数多くの数寄屋建築等を世に残した「仰木魯堂」とその弟で工芸家として活躍した「仰木政斎」についての展示を行いたいと考えております。近代茶の湯の世界に大きな影響を与えており、この兩人を取り扱った展示展としては全国初となり、市制60周年記念の事業としてふさわしいのではないかと考えております。この展示を機に、広く市民に中間市出身の偉人を周知し、郷土愛の醸成を図っていきたいと考えます。事業費といたしましては総額550万円、内容としましては入場料収入で10万円、図録の売払い収入で20万円、協賛金、これはハーモニーホールの負担になりますが30万円、県の補助金といたしまして340万円、市の単費としての550万円で総額550万円を予定しております。

次に福岡県指定文化財「垣生羅漢百穴」保存整備事業でございます。事業内容は垣生公園内にある垣生羅漢百穴は樹木の育成が原因で崩落の危機が高まっております。自治会からは、地域住民の振興の場にもなっているため、安全を考慮した整備をしてほしいとの要望があがっております。これまで大切に守られてきた文化財であり、福岡県指定文化財であるため、遺跡保護の観点から、また福岡県文化財保護条例順守の観点から、保存整備実施を検討しております。なお、整備事業は平成30年度から開始し、平成32年度に終了する予定でございます。事業費といたしましては、平成30年度に70万円を計上いたしております。補助金といたしましては、事業年度毎に行われまして、1/2の35万円が補助金となります。以上でございます。

福田市長

来年の新規事業案について、各課長から提案がございました。教育委員の皆様何かご意見、ご質問ございますか。

衛藤委員

はい。SSW事業ですが、2名のSSWの方を配置するということが、具体的にはどのような形で配置される計画でしょうか。もう少し具体的なことをお聞かせいただきたいと思います。例えば小学校1人、中学校1人配置する予定がある等です。2名であれば、非常に効果が上がると思えますが、各学校との具体的な連携をどう考えているのかということについてお尋ねいたします。

森学校教育課
指導室長

回答いたします。具体的な運用の方法ですが、2名のスクール・ソーシャル・ワーカー、実は現在も県の事業として来ていただいております。お

一人中学校2校を受け持つという形で、4中学校に対して2校ずつの体制で配置をしております。中学校が基本で、同じ校区の小学校の相談も一緒に取り組んでいくという形となっております。実際には色々な運用の形があります。一番大きな役割は、子ども達が抱える問題に対して、必要な関係機関、特に福祉分野について、繋がりを作るパイプ役というのがあります。そのために子どもと直接相談をしたり、保護者と会って相談を聞いたりしながら、関係機関と一緒に取り組みを推進していくということです。これまで、教員が家庭訪問を繰り返しながら、お母さん、お父さんに話ながら解決にあたってきました。しかし教育分野だけでは解決が難しい課題が多いので、周りの関係機関との連携を図っていくという役割を担っております。以上です。

片平教育長

スクール・ソーシャル・ワーカーは、中間市にはずっと入っていませんでした。どうして入れないのかということで、県と掛け合って、去年から今年までの2年間は県費で入りました。教師は指導、カウンセラーは心の問題、SSWについては、社会資源をうまく活用して家庭、地域の問題を解決していくようにしています。今家庭の問題が非常に多く、それを背景とする問題行動が非常に増えています。そういったところで支援を行い、三者が組んで指導していくということは、この2年間で非常に効果が上がっているように見受けられました。SSWは今年で県費が切れますので、是非市費でSSWを配置したいと思っております。

衛藤委員

かなり学校の先生方の、相談活動が負担減になると理解をして良いでしょうか。

森学校教育課
指導室長

負担減もちろんです。SSWが相談を受けた後に、直接色々なところに働きかけるというところで、負担軽減プラス実行的な効果も非常に高いと思われます。例えば不登校についても、状況が改善したという事例は非常に沢山ございます。学校からのニーズも非常に高い人材になっております。以上です。

衛藤委員

ありがとうございました。

福田市長

他にはございませんか。それではないようなので、次に議事3、その他に移らせていただきますが、委員の皆様から何かございませんか。
それでは他にないようなので、すべての議事を終了させていただきます。

ありがとうございました。

田中教育部長

皆さまお疲れさまでした。市長、議事進行ありがとうございました。また教育委員の皆様活発に議論していただきまして、ありがとうございました。それではこれもちまして、平成29年度中間市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

[閉会時刻：午前15時55分]